

(国語)

## 「自分の考えを持ち、豊かに交流できる子どもを育てる」

### —国語科を中心に—

大阪市立南住吉小学校 研究部

#### 1. 研究主題設定の理由

本校では、「一人一人のよさや可能性を伸ばし、確かな学力を基盤として生きる力を育む教育活動を推進する」という教育目標のもと、目指す子ども像を「自ら学び、深く考える子」「ねばり強く、最後までやりとげる子」「健康でたくましい子」「みんなで力を合わせてがんばる子」とし、日々の教育活動を展開している。

その過程で、しんだんや全国学力学習状況調査などのように、児童が初めて出会う文章の読み取りが十分でないという実態が見えたため、平成26年度より、国語科において、説明的文章や物語文を通して、読みとる力を育てる研究を重ねてきた。2年間の研究により、読み取りにおいて基礎的な力を高めることができたものの、学力テストでは、まだ他領域と比べて「読む」力は低かった。そして、自分の考えをなかなかもつことができない児童も少なくなかった。また、授業者の発問が一問一答になってしまい、豊かに交流する授業を構築することができなかった。そこで、昨年度も、引き続き国語科を研究教科とし、これまで身につけた読み取る力を元に、さらに「自分の考えを持ち、豊かに交流できる子どもを育てる」指導法について研究を行った。

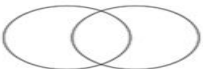

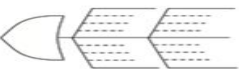
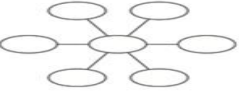
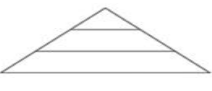
昨年度の研究において、自分の考えをもたせるためには、思考ツールなどが有効ではないかということ、豊かな交流をするためには、多様な考えを引き出す発問を工夫しなければならないことがわかってきた。さらに、ただ一方的に意見を述べ、感想を伝える交流ではなく、聞き手からも新たな意見が出て、深い学びにつながるような交流の仕方の工夫ができないかといった新たな課題がでてきたため、今年度も、この課題を中心に研究を進めることとした。

#### 2. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の柱を以下のように設定した。

##### 柱① 自分の考えを持ち、表現するための思考ツールの活用

- ・ 付箋、図や表、ワークシートなどを活用する。
- ・ 思考ツールの例

比較する ベン図	分類する Xチャート	多面的に見る フィッシュボーン図						
								
関連付ける イメージマップ、 コンセプトマップ	構造化する ピラミッドチャート	評価する PMI分析表						
		<table><tr><td>Plus いいところ</td><td>Minus わるいところ</td><td>Interesting 面白いところ</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></table>	Plus いいところ	Minus わるいところ	Interesting 面白いところ			
Plus いいところ	Minus わるいところ	Interesting 面白いところ						

(内田洋行教育総合研究所 HP より)

##### 柱② 多様な発言を引き出すための発問の工夫

「主発問⇒深める発問⇒まとめる発問」の中で、以下のような発問を取り入れる。

- ・ オープンエンドで考えられる発問
- ・ 理由や根拠を尋ねる発問
- ・ ゆさぶる発問
- ・ 自分の体験と重ねる発問
- ・ 学級全体へ返す発問                      など

### 柱③ 効果的な交流の仕方の工夫

- ・ 「一人で考える」→「ペア・グループで交流」→「全体交流」と徐々に大きな集団にする。
- ・ 思考ツール（付箋やYチャートなど）を活用する。
- ・ グループの意見をホワイトボードに整理し、発表する。
- ・ 交流ヒントカードや掲示した話型を参考にして話すようにする。
- ・ 名前カードで自分の考えを表明する。
- ・ I C Tを活用して、グループの意見をわかりやすく全体に伝える。

## 3. 研究の成果と今後の課題

### （1）研究の成果

- ① 自分の考えをもち、表現するための思考ツールの活用
  - ・ 目的に応じて、思考ツールやワークシート、付箋を活用することで、自分の考えを持ちにくい児童も意欲的に自分の考えを書くことができるようになってきた。
- ② 多様な発問を引き出すための発問の工夫
  - ・ 児童に付けたい読みの力を念頭におき、児童の初発の感想をもとにして課題を考えるなどして、児童が意欲的に考え、友だちと交流したくなる主発問を用意することができた。
  - ・ 全文にまたがる発問や理由を問うなど、一問一答にならない発問を工夫することができた。
  - ・ 生活体験を振り返ったり、動作化したりして、読みを深める発問を工夫することができた。
  - ・ 児童の意見を板書で整理し、本時の課題にそってまとめる発問を工夫することができた。
- ③ 効果的な交流の仕方の工夫
  - ・ 自分の考えを持たせた後、ペア・グループなどの少人数で交流し、全体交流するという流れが定着し、全体でも自信を持って発表することができる児童が増えてきた。
  - ・ グループ交流の中で、話し合いの進め方の話型を用意したことにより、聞き手からも意見や質問が出るようになり、話し手・聞き手双方向の交流ができつつある。
  - ・ ホワイトボードや付箋を活用したことで、グループでの話し合いが意欲的になり、意見の整理がしやすくなった。発表にも生かすことができた。
  - ・ 全体交流で名前カードを貼ることにより、全員の考えが一目でわかり、話し合いが活発になった。

### （2）今後の課題

- ・ 国語科だけではなく、他教科でも目的に応じて思考ツールを活用していく。
- ・ 多様な発言を引き出す発問を精選するために、指導者も協同で教材研究に努めていく。
- ・ 課題に応じて交流の場を工夫し、さらに主体的な交流ができるようにしていく。
- ・ I C Tを整備し、効果的な活用の仕方を、さらに工夫していく。